大正時代の急須

常滑で急須がつくられるようになったのは、今から約200年前の江戸時代後期（1800年代）初頭です。以後、多くの名工によって、白泥土や朱泥土など土の開発や釉薬の研究がおこなわれました。明治時代に開催された内国勧業博覧会等の出品目録には常滑の急須があり、常滑の急須生産が盛んであったことがうかがえます。しかし、近代後期（大正時代～昭和時代初期）になると、博覧会への出品が激減し、急須の需要が後退、つくり手も減少するなど、常滑の急須は冬の時代を迎えたと考えられています。

今回の企画展では、これまで一定の評価を得られてこなかった大正時代の急須に焦点を当て、近代後期における常滑の急須生産について考えます。（小栗康寛）

初代山田常山 作

朱泥絵付茶器一式

初代山田常山（1868-1942）は、近代の急須の名工として知られる人物です。青年時代は鯉江方寿の下でロクロの技術を磨き、中国茶器を写した優品が知られています。本作は、急須、湯冷まし、煎茶碗からなる茶器セットで、三重県の萬古で絵付けが施されたと伝わっています。初代常山が活躍した当時、常滑の朱泥急須は希少で、大量につくられていた萬古の急須ともに市場へ流通していたことから、「赤萬古」とも呼ばれました。

急須… 総高：7.0㎝　蓋径：5.5㎝　底径：4.7㎝

初代山田常山 作 吉原葭洲 彫

朱泥細字刻急須 大正5（1916）年

初代山田常山とその岳父である吉原葭洲（1850-1919）の合作。吉原葭洲は、篆書や山水画を得意とした彫師です。本作は、蘇軾の代表作である「赤壁の賦」の2詩が刻まれた優品で、気品に満ちた朱泥土と精緻な技が見所です。市有形文化財に指定されているもので、大正時代を代表する常滑の急須の一つです。

総高：7.0 ㎝
蓋径：4.0 ㎝
底径：4.0 ㎝

初代山田常山 作

白泥石磨急須

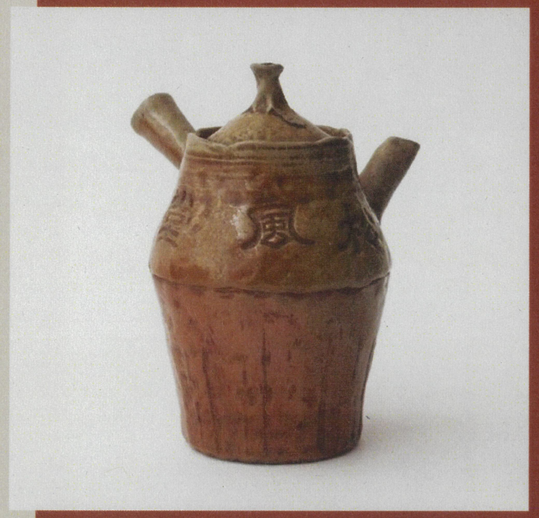
白泥土を用いた初代常山の珍しい急須です。大正時代につくられた白泥急須は、火色焼（現在の藻掛け焼）や緋襷焼が定番でした。本作は、玉石を使って光沢が出るように表面を磨き上げています。中国茶器の風格とともに初代常山の瀟洒な技が光る一品です。

総高：5.5㎝
蓋径：4.3㎝
底径：6.7㎝

四代伊奈長三 作

白泥急須 銘「松風堂」大正元（1912）年

四代長三（1841-1924）は、明治から大正時代にかけて活躍した名工の一人です。祖父である二代長三（1780-1857）の技を引き継ぎ、精緻なロクロの技術と野趣な手びねりで多くの作品を残しました。本作は、手びねりで仕上げられているもので、常滑の急須生産のルーツといわれている「足利家茶瓶四十三品図録」の「松風堂」を題材にした珍品です。

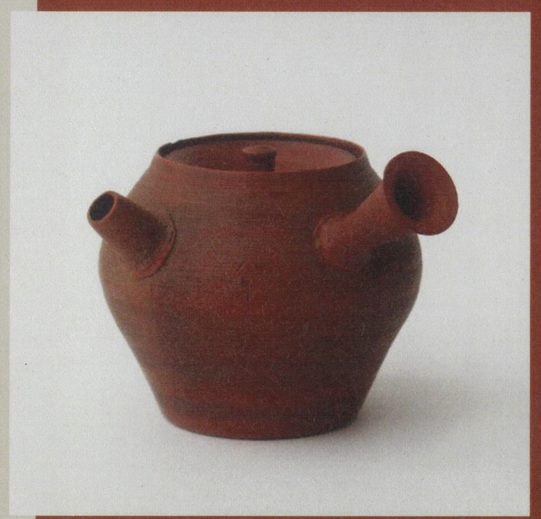


総高：11.8 ㎝
蓋径：4.4 ㎝
底径：5.0 ㎝

四代伊奈長三 作

朱泥糸巻急須 大正12（1923）年

本作は、ロクロによる回転を利用し、ヘラや爪で線状の装飾が施されています。この装飾は現代の作家も取り入れており、糸巻、筋引、千筋手などと呼ばれています。
本体の重さは、蓋もあわせて 84ｇと軽く、まるで紙のように薄く仕上げられています。近代の名工として名高い四代長三の技術を示す名品です。



個人蔵
総高：7.0 ㎝
蓋径：4.9 ㎝
底径：4.8 ㎝

とこなめ陶の森 資料館 企画展

大正時代の急須

とこなめ陶の森 資料館

瀧田椿渓 作

南蛮写急須 大正5（1916）年

瀧田椿渓（1853-1932）は、二代稲葉高道（1801-1868）の指導を受けた名工の一人で、粗い土である「南蛮土」を生かした茶器を得意としました。本作は、少しねっとりとした質感をもつ暗黄灰色の土が使用されています。また、東南アジア諸国のやきものの風合いに似ていることから、南蛮写とも呼ばれています。

総高：7.5 ㎝
蓋径：6.8 ㎝
底径：4.2 ㎝

初代磯村白斉 作

白泥藻掛急須

初代磯村白斉（1851-1920）は、二代松下三光（1829-1887）の下で製陶を学び、のち伊藤董斎（1824-1874）に師事して南蛮写の研究をしました。本作は胴部上半部及び蓋を筋引きで仕上げ、コアマモを巻き付けて焼成しています。この技法は藻掛けと呼ばれているもので、二代長三が始めたといわれています。海草に含まれたわずかな塩分が火（緋）色に発色することで、白い器面に常滑ならではの彩を与えてくれます。

総高：6.0 ㎝
蓋径：4.4 ㎝
底径：3.8 ㎝

初代不識庵素三 作

南蛮写急須

初代不識庵素三（1866-1922）は、幼少の頃から初代森下木二（1823-1889）に製陶の技術を学んだ名工で、伊勢や備前に技術指導で招聘されるほどの名手だと伝わっています。特に茶道具が得意で、茶の湯の南蛮写を得意としました。本作は、砂粒を混ぜた暗黄色の土に、寸胴なフォルムと短い注ぎ口を合わせたユーモラスな形状をしています。

総高：8.0 ㎝
蓋径：5.7 ㎝
底径：6.8 ㎝

とこなめ陶の森 資料館　企画展 大正時代の急須　2024年 4月27日（土）- 7月7日（日）